

(2) 第12回 先端加速器科学技術推進シンポジウム

日 時：平成24年10月27日

場 所：アクロス福岡 国際会議場

共 催：先端基礎科学次世代加速器研究会

後 援：福岡県、佐賀県、九州経済連合会、九州大学、佐賀大学
高エネルギー加速器研究機構

テーマ：宇宙の謎に迫る

参加者：200名

概 要：

10月27日(土)、アクロス福岡(福岡県福岡市)で先端加速器科学技術推進シンポジウム2012 in 九州が開催されました。

シンポジウムでは、今年7月に質量の起源であるヒッグス粒子とみられる素粒子を発見した欧州合同原子核研究機関(CERN)のロルフ・ホイヤー所長と、高エネルギー加速器研究機構(KEK)の鈴木厚人機構長から、宇宙誕生の解明につながる国際リニアコライダー(ILC)計画等が紹介されました。

冒頭の開会挨拶で小川康佐賀県知事は「脊振地域でILC計画が実現すれば、研究者と住民の交流を通じて、アジアでも類を見ない文化・学術交流機能を兼ね備えた国際研究都市が形成できます。人類にとって偉大な飛躍となる発見が脊振地域から全世界へ発信されることを願っています」と述べました。

引き続き、九州大学大学院理学研究院の川越清以教授が、加速器と加速器実験の概要を解説しました。また、当日の講演者である、ホイヤー氏、鈴木氏のプロフィールを紹介するとともに、直前まで福岡で行われていた「第1回アジア・ヨーロッパ・太平洋高エネルギー物理スクール」を紹介しました。このスクールは、世界トップレベルの研究者を講師に迎え、アジア太平洋地域、及び欧州諸国の大学院生、若手研究者に最新の素粒子物理研究について学ぶ機会を提供するスクールで、ホイヤー、鈴木両氏が特別講演を行いました。

一つ目の講演を行ったホイヤー氏は、CERNのミッションを解説し「知のフロンティアの推進」「加速器、測定器の新技术の開発」「次世代の人材育成」そして「異なる国、文化の融合」を挙げました。そして「もしも日本に国際研究都市を造りたいのであれば、是非CERNに来て欲しい。CERNはまさに国際研究都市であり、共通語として科学を使っている」と、語りました。また、稼働中である「大型ハドロンコライダー(LHC)」での実験成果を説明し「今後はヒッグス粒子が1種類なのか、複数なのかなど詳しく検証しなければならない。宇宙の暗黒物質の解明など、人類史上初の研究にLHCとILCが相互補完的に重要な役割を果たす」と述べました。ホイヤー氏の講演は、大阪大学大学院理学研究科の花垣和則准教授により逐次通訳が行われました。

鈴木氏は「国際リニアコライダー(ILC) 計画 実現にむけて」と題する講演を行いました。

また、講演後には「みんなの不思議をカイケツ！」として、Q&Aセッションが行われ、活発な質疑応答が行われました。会場で回答することができなかった質問については、後日回答集を作成し、ウェブサイトで公開しました。

シンポジウム終了後には、ホイヤー氏、鈴木氏と一般参加者との交流会が開催されました。交流会には、30名が参加。なごやかな雰囲気の中、研究者と参加者が意見交換を行いました。



九州大学 川越教授



CERN所長
ロルフ・ホイヤー



高エネルギー加速器研究機構
鈴木機構長



大阪大学 花垣准教授



京都大学 尾田助教